

# The 3rd International Conference on Computational Engineering and Science for Safety and Environmental Problems (COMPSAFE2020)

## 会議報告

只野 裕一 (佐賀大学)

2020年12月8日から11日の4日間、The 3rd International Conference on Computational Engineering and Science for Safety and Environmental Problems (COMPSAFE2020)が、オンライン国際会議として開催されました。本会議は、当初は2020年3月8日から11日まで、兵庫県神戸市の神戸国際会議場にて開催される予定であったものですが、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の世界的流行により開催延期され、更に最終的にはオンライン開催となったものです。筆者は、本会議の事務局長として会議運営に2年8ヶ月に渡って携わりました。感染症の世界的流行に翻弄された本会議ですが、その様子をここに報告させていただきます。

COMPSAFEは、Asian Pacific Association for Computational Mechanics (APACM) の thematic conference および International Association for Computational Mechanics (IACM) の special interest conference にも認定されている国際会議であり、第1回が2014年4月に仙台で、第2回が2017年10月に中国・成都で開催されました。第3回となる今回は再び日本に会場を移し、1995年の阪神・淡路大震災から復興を成し遂げ、日本有数の国際都市でもある神戸において、2020年3月に開催される予定でした。JACMと日本計算工学会 (JSCES) の共催による、オールジャパン体制で臨んだ国際会議であり、JACM、そして日本の計算力学分野にとっても、重要な位置づけの会議と言えます。議長・磯部大吾郎教授 (筑波大)、副議長・岡田裕教授 (東京理科大)、現地実行委員長・坪倉誠教授 (神戸大、理研) を中心とした実行委員会、現地実行委員会により、準備が進められました。

種々の準備も順調に進み、会議本番まで残すところわずかとなった2020年1月下旬、COVID-19 (当時はまだこの呼び名はなく、新型肺炎などと呼ばれていました) の急激な感染拡大により、状況が急変することになります。当初は、感染拡大防止策を十分に検討した上で、開催の可能性を模索していましたが、2月中旬には開催自体が難しいと判断される状況となりました。このため、2月21日に断腸の思いで開催延期を正式決定しました。延期後の日程は2020年12月8日～11日とし、当初は神戸国際会議場での開催を予定していましたが、COVID-19の状況の先行きが見通せず、6月4日に完全オンライン開催とすることを決めました。

オンライン開催とはなりませんが、参加者に極力ライブ感を感じて頂きたいという思いから、録画配信ではなく原則としてリアルタイムで講演して頂く方針での開催となりました。このため、各国の時差を考慮したプログラム編成が必要となり、午前の部 (日本時間で9:00開始。米国と周辺地域が夕方) と夜の部 (日本時間で18:00開始。欧州と

周辺地域が午前中) の2部構成による、やや変則的なプログラム構成となりましたが、この構成は海外はもとより、国内の参加者から好評だったようです。

会議初日の12月8日は、当初はExcursionとWelcome Receptionが予定されていましたが、オンラインではそれも叶わないため、参加者に少しでも楽しんで頂こうと、本来はBanquetで披露する予定であった日本の伝統的な手品である手妻を、神戸ポートピアホテルより配信しました (写真1)。この配信は、100名以上の方にライブで視聴頂きました。



写真1 手妻のライブ配信風景

9日朝のOpening Ceremonyでは、議長・磯部大吾郎教授、APACM会長、JACM前会長・吉村忍教授、IACM Secretary General・Jhon E. Dollbrow教授、JACM会長、副議長・岡田裕教授によるスピーチが行われ、COMPSAFE2020は幕を開けました (写真2)。先行きの見えない状況で、しかもオンライン開催という形態から、どれだけの講演が集まるか不安もありましたが、蓋を開けてみれば23のMinisymposiaで254件の講演発表 (うち筆頭著者が海外からの講演が51件) がなされ、大いに盛り上がる国際会議となりました。オンライン開催となり、講演件数は120件も集まれば御の字と考えていましたので、これは嬉しい誤算でした。また、プレナリ講演4件、セミプレナリ講演10件についても、当初開催予定時に講演をお願いしていたほぼ全員から再依頼にも快諾頂き、世界各地からそれぞれ大いに熱のこもった講演を頂きました。オンライン会議では、対面講演と比較して質疑の盛り上がりには欠けることが懸念されましたが、実際にはネットワーク越しながら白熱したディスカッションが各所で交わされ、ライブ形式での会議とする意義を再認識することができました。



写真2 Opening Ceremonyでの吉村忍教授（APACM会長、JACM前会長）によるスピーチ

会議はオンライン会議ツールZoomを用い、一般セッションは10の平行セッションで開催されました。ディスプレイ越しでは見えない裏事情を少しお伝えすると、セッション毎にZoomのオペレータを配置する体制で臨む必要があるため、運営側は完全なリモート操作での対応は難しく、実行委員、現地実行委員を中心とする13名が、神戸ポートアイランドにある理化学研究所計算科学研究センター（R-CCS）に集まり、当日の運営にあたりました（写真3）。密集を避けるため、R-CCSの講堂の広い空間で各委員が距離を空け、それぞれ2-3台のPCを立ち上げてのオペレートでしたが、予期せぬトラブルも発生し、想像以上に大変な作業でした。



写真3 R-CCSでの現地オペレーションの1コマ

最終日の締め括りは、現地実行委員長でもある坪倉誠教授による” Prediction and Countermeasure for Droplet/Aerosol Infection under the Indoor Environment for the Fight against COVID-19” と題したプレナリ講演でした（写真4）。最先端のシミュレーション技術がCOVID-19克服にどこまで貢献できるか、スーパーコンピュータ富岳の設置されているR-CCSから世界へ発信できたことは、大いに意義のあることであったと思います。

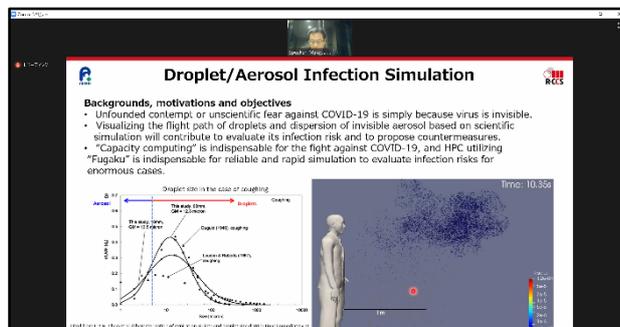


写真4 Zoomによるオンライン講演の様子（坪倉教授によるプレナリ講演）

今回、一連の経緯を振り返るために当時のメールボックスを確認したところ、2月初旬からの約4週間で、事務局がやりとりしたメールは1,000通を優に超えており、改めて当時の緊迫した状況と混乱が脳裏に甦りました。刻々と変化する情勢の中、完璧とはいえない運営だったかも知れませんが、実行委員会として取り得る最善は尽くしたものと信じています。次回開催の時期や会場は未定ですが、この未曾有の困難を乗り越え、近い将来、第4回のCOMPSAFEがFace-to-faceで開催されることを願ってやみません。

## 14th. World Congress on Computational Mechanics and 8th. European Congress on Computational Methods in Applied Science and Engineering (14<sup>th</sup> WCCM&ECCOMAS Congress 2020) 会議報告

萩原 世也（佐賀大学）

2021年1月11日(月)から15日(金)にかけて、14th. World Congress on Computational Mechanics and 8th. European Congress on Computational Methods in Applied Science and Engineering (14th WCCM&ECCOMAS Congress 2020)がオンラインで開催されました。この会議は2020年7月19日(日)から24日(金)にかけて、フランス共和国のパリ市で開催される予定でしたが、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大により延期・オンラインで開催されたものです。日本からも多数の方々に参加されました。その会議報告をさせていただきます。

1月11日にOpening Ceremonyが日本時間の午後10時から開催されました。5日間を通して、4件のPlenary Lectureと20件のSemi-Plenary Lectureがありました。これらはすべてライブのオンラインで配信される形で行われました。

日本からは、東京大学の吉村忍教授が”Partitioned Coupled Simulations of Clean Energy Systems towards Exascale Computing”でPlenary Lectureを行い、横浜国立大学の山田貴博教授が”Numerical verification of finite element method for large deformation problems of hyperelasticity”のタイトルで、東京大学の越塚誠一教授が”Moving Particle Semi-

implicit Method for Multiphase Flows”のタイトルでSemi-Plenary Lectureを行いました。また、神戸大学の坪倉誠教授がRound-table - The future of computational mechanics at horizon 2040の企画に参加されていました。

一般の講演者はあらかじめ講演とスライドを録画・録音しそれをアップロードして再生する形で行われました。講演者が多いミニシンポジウムでは、MS Live discussionが設

定され、リアルタイムで同時に講演者たちがディスカッションを行う時間が設定されていました。このように一般講演は2500件以上の発表レコードが登録されているとアブストラクト集には記載されていました。その他Female Researchers Chapter (FRC) - LiveやECCOMASの企画も多く同時に開催されていました。

## 第10回計算力学シンポジウム報告

岡田 裕 JACM 会長 (東京理科大学)

日本学術会議主催の第10回計力学シンポジウムが12月7日(月)にオンライン開催されました。例年は同時期に東京都港区六本木・日本学術会議講堂で開催されてきたものです。今回は新型コロナウイルス感染症の影響によりZoomオンライン開催となりました。例年通り、主催は日本学術会議総合工学委員会、共済団体として日本計算力学連合はじめ、可視化情報学会、可視化情報学会、CAE懇話会、日本応用数理学会、日本機械学会、日本計算工学会、日本計算数理工学会、日本計算力学連合、日本シミュレーション学会、アジア太平洋計算力学連合の10団体、さらに自動車技術会が後援団体として参加しています。

シンポジウムは越塚誠一・東京大学教授(日本学術会議連携会員)と横野泰之・東京大学特任教授(日本学術会議連携会員)の総合司会の下、吉村忍・東京大学教授(日本学術会議第三部会員)の開会の辞により開始しました。続いて、第一部の参加学協会から推薦された若手研究者による講演が行われました。各学協会で奨励賞等を受賞された方々が推薦されています。日本計算力学連合からは、2020年JACM Young Investigator Awardを受賞された京都大学の亀尾佳貴助教が講演されました。亀尾助教のご講演「多細胞システムにより創発される骨の構造と機能の力学的適応の数理モデリング」では、骨リモデリングに関する計算力学的な研究成果を発表されました。若手研究者による講演題目は以下の通りです。

- 野々村拓(可視化情報学会, 東北大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻准教授)「流体力学の低次元モデルとスパースセンシング」
- 鈴木良朗(CAE懇話会, 東京工業大学工学院機械系機械コース助教)「最新の深層学習(STYLEGAN, GCN)による新車体のメッシュ合成～機械工学と深層学習の融合へ向けて～」
- 南畑淳史(日本応用数理学会, 中央大学理工学部情報工学科助教)「非対称疎行列を係数とする連立一次方程式に対する精度保証付き数値計算法とその応用」
- 藤澤和謙(日本計算工学会, 京都大学大学院農学研究科地域環境科学専攻准教授)「マルコフ連鎖モンテカルロ法による未知形状のベイズ推定」
- 丸山泰蔵(日本計算数理工学会, 愛媛大学大学院理工学研究科生産環境工学専攻講師)「波動・振動解析技術の融合による接触音響非線形問題の周波数応答解析」
- 亀尾佳貴(日本計算力学連合, 京都大学ウイルス・再生医科学研究所助教)「多細胞システムにより創発される骨の構造と機能の力学的適応の数理モデリング」

- 田中智大(日本シミュレーション学会, 京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻助教)「局所慣性方程式の安定性解析と洪水氾濫解析への新展開」
- 石井明男(日本機械学会計算力学部門, 大阪大学大学院基礎工学研究科機能創成専攻特任講師)「時間拡張原子シミュレーションの現状と問題点」

第一部に続き、第二部では特別企画「ポストパンデミックの計算力学」と題し、2件の特別講演が行われました。

- 西浦博(京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻教授)「COVID-19の確率モデルとクラスター対策」
- 坪倉誠(理化学研究所計算科学研究センター/神戸大学大学院システム情報学研究科教授)「『富岳』を用いた室内環境におけるウイルス飛沫感染の予測とその対策提案」

西浦先生は8割おじさんとして、坪倉先生は富岳による飛沫シミュレーションで一般の方々によく知られています。テレビや新聞で見ることのできない学術的な側面を掘り下げた講演内容から、それらの詳しい内容、例えば飛沫シミュレーションでは基礎方程式や離散化手法、を知ることができ大変興味深いものでした。

続いて、金田千穂子・東北大学国際集積エレクトロニクス研究開発センタ教授)がモデレータを務められ、総合討論が行われ、萩原一郎・明治大学特任教授(日本学術会議連携会員)による閉会の辞により終了致しました。

新型コロナウイルス感染症の影響によるオンライン開催の結果と思われませんが、参加者数が例年に比べて大幅増となりました。私の記憶なので正確ではありませんが、例年の30名程度に対して今回は参加者が120名を超える時間帯がありました。Zoomで参加者のお名前を確認することができたのですが、日本全国からの参加がありました。一日のシンポジウム聴講のために東京出張は難しいけれども、オンラインなら参加できる方が多くいらしたのだろうと想像しています。

余談ですが、私の所属しております東京理科大学でも2020年度の授業はほぼ全面的にZoom遠隔で実施されました。スライドを中心に実施する授業では授業資料が手元のPC画面に大きく映し出されるので、教室での対面授業より理解しやすいとか、授業を録画してアーカイブするので復習がし易くなるなど、ポジティブな面もありました。今後、学術シンポジウムも遠隔、対面・遠隔ハイブリッド、対面など様々な形態でそれぞれの長所を生かして実施すると思うのでいいのだらうと思います。

# 2021 JACM Awards 候補者の募集

岡田 裕 JACM 会長 (東京理科大学)

日本計算力学連合 (JACM) は、計算力学分野における顕著な功績および業績をあげた研究者を表彰する3種類の JACM Awards の候補者を募集します。JACM 会員におかれましては、候補者を自薦他薦で奮ってご推薦下さい。受賞者には、2021年7月開催予定の2021 JACM 総会において表彰予定です。

\*\*\*\*\*

## The JACM Computational Mechanics Award

日本計算力学賞 (3名以内)

計算力学の広い分野での顕著な研究業績、ソフトウェア開発、計算技術開発を行った研究者に対して与えられる。

## The JACM Young Investigator Award

日本計算力学奨励賞 (3名以内)

計算力学分野で顕著な業績及び研究を行った40才以下 (表彰年4月1日現在で40才未満) の研究者に与えられる。

## The JACM Fellows Award

日本計算力学連合フェロー賞 (5名以内)

計算力学分野で顕著な業績を上げ、JACM へのサポート、および IACM 関連国際学会に貢献した研究者に対して与えられる。

過去の受賞者は、下記 URL で一覧できます。

<https://ja-cm.org/Japanese/Award/past.html>

\*\*\*\*\*

推薦書に記載して頂く項目は以下の通りです。

1. 推薦しようとしている Award の名称
2. 候補者の氏名、所属・住所、e-mail アドレス (奨励賞候補者は生年月日も記載のこと)
3. 推薦者の氏名、所属・住所、e-mail アドレス
4. 主な受賞歴を含む経歴 (最大 10 行以内) 完全なリストである必要はありません。最近のもの、あるいは最も重要なポストを記載してください。
5. 候補者の最も主要な功績あるいは業績の簡潔な記述 (500 字以内)。特に、その Award の候補者として推薦する理由がわかるように記載してください。

推薦状のフォーマット兼例文は、以下の URL にあります。

<https://ja-cm.org/Japanese/Award/index.html>

推薦書は、2021年3月31日(水)までに e-mail にて、次のアドレスにお送りください。

送付先: [award@ja-cm.org](mailto:award@ja-cm.org)

なお、候補者は主に日本国内において活動した研究者 (外国人も含む)、候補者及び推薦者は、応募時点で JACM 会員であることが必要です。

ご推薦をお待ちしております。

## JACM 規約改定と名誉員選出に関する内規の制定

岡田 裕 JACM 会長 (東京理科大学)

JACM は2002年12月17日に設立され、今から約2年後には設立から20年となります。設立から現在まで、IACM(International Association for Computational Mechanics) 関連国際会議への協力を通じた国際貢献や計算力学関連研究者の表彰を行なってまいりました。JACM は日本の計算力学関連団体として国際的に認知されています。

将来の発展を見据え、JACM の活動内容や表彰に関する事項など、JACM 規約の中で明記されていない事項が多かったので、それらを明記する目的で規約改定を行いました。2020年から会長・副会長・事務局長で規約改定について議論を開始し、2021年1月30日にJACM 運営委員へ規約改定(案)の趣旨、改定案、新旧対照表を送付し、ご承認頂きました。主な変更は、「会員の特典」、「総会」、「表彰」、「役員会」に関する事項の追記です。

次に名誉員選出に関する内規制定について報告いたします。JACM 規約の中で名誉員は「計算力学分野において特に優れた業績を有し、かつ JACM 活動に大きな貢献をした65歳以上の会員」と定義されています。しかし、名誉員選出の手続きについて明文化されていませんでした。そのため、規約改定と同時に名誉員選考に関する内規を制

定し、今後名誉員の選出を継続的に行うこととしました。

2021年2月24日改定のJACM 規約と制定された名誉員選出に関する内規は下記の通りです。

### JACM 規約(Ver.3.5)

(2005年1月18日)  
(2008年6月30日改)  
(2010年7月7日)  
(2011年7月27日訂正)  
(2021年2月24日改)

1. 名称  
本会は、JACM (Japan Association for Computational Mechanics) (日本計算力学連合) と称する。

2. 組織形態  
本会は、IACM (International Association for Computational Mechanics) (国際計算力学連合) の日本支部 (IACM affiliated Society) であり、国内の計算力学研究者が個人で参加する

任意団体(友好団体)とし、国内の既存の学会とは独立した、一種のアンブレラ組織である。

### 3. 目的と活動内容 (Purpose and Activities)

本会は、主として、IACM 関連の計算力学に関する国際学術講演会 (WCCM, APCOM, ECCOMAS, USNCCM 等) の企画に参画することを目的とする。この目的の下、主として以下の活動を行う。

- (1) IACM 関連の計算力学に関する国際学術講演会 (WCCM, APCOM, ECCOMAS, USNCCM 等) の企画に参画する。具体的には、同会議における招待講演、基調講演、ミニシンポジウム等の提案を行う。
- (2) 主として、メーリングリスト、HP、メールマガジンを活用して、会員相互のコミュニケーションと、IACM, APACM (Asian Pacific Association for Computational Mechanics) 等と国内関連学会との連携を図る。
- (3) 本会単独での国内講演会やジャーナル発行などの活動は特に行わないものの、計算力学関連学会等が主催する計算力学関連イベントには積極的に協賛し、JACM の HP やメールマガジン、メーリングリストを活用して、国内外の計算力学関連情報の円滑な伝達を支援する。
- (4) 計算力学分野で特に優れた活動を行った個人を表彰する。
- (5) IACM 登録希望者には登録手続きを代行する。代行にあたっては、IACM 登録料実費と若干の事務経費を請求する。

### 4. 会員 (Individual Member)

日本で活動する計算力学研究者・技術者及び海外で活動する日本国籍を有する計算力学研究者・技術者が会員となることができる。JACM 会員には下記の特典がある。

- (1) IACM 関連の計算力学に関する国際学術講演会の情報をメーリングリスト等で得ることができる。
- (2) IACM や APACM (アジア太平洋計算力学連合) の各賞への推薦
- (3) JACM 各賞への推薦
- (4) IACM や APACM 運営委員 (General Council Member) 候補への推薦

### 5. 名誉員 (Honorary Member)

計算力学分野において特に優れた業績を有し、かつ JACM 活動に大きな貢献をした 65 歳以上の会員もしくは元会員を名誉員とすることができる。名誉員は、名誉員選考委員会によって選考され、運営委員会によって承認される。

なお、名誉員選考委員会に関する事項と名誉員選考手順の詳細については別途定める。

### 6. 運営委員会 (General Council)

国際的活動と国内の計算力学関連活動を円滑に結ぶために、国内の計算力学関連学会から運営委員 (General Council Member) を 1 ないし複数名選出し、運営委員会が会の運営にあたる。運営委員の任期は 1 期 3 年 (各期は 4 月 1 日開始) とし、再任を妨げない。なお、JACM 会長経験者は自動的に運営委員となる。

運営委員は主に次の役割を担う。

- (1) 会長の選出
- (2) 規約等の改定の承認

(3) JACM Award 候補者の推薦

(4) JACM から関連学会への依頼事項の担当窓口

(5) JACM メーリングリスト等に流れる関連情報の選出母体学会への通知

(6) 関連学協会から JACM への情報流通の担当窓口

### 7. 役員 (Executive Member) および役員会 (Executive Board Member Meeting)

役員は会長 (President) 1 名、副会長 (Vice President) 2 名、事務局長 (Secretary General) 1 名から構成される。運営委員の互選によって会長を選出し、会長が副会長および事務局長を指名する。会長、副会長、事務局長の任期は 1 期 3 年 (各期は 4 月 1 日開始) とし、2 期を限度として再任できる。

また、役員により構成される役員会を設置する。役員会は会長が召集し、会長が議長を務める。下記に定める定例役員会、臨時役員会を開催し、JACM 運営に関する重要事項について審議する。

- (1) 定例役員会を原則隔月開催する。役員全員の出席により成立する。
- (2) 必要に応じて臨時役員会を開催することができる。役員全員の出席により成立する。

### 8. 事務局 (Secretariat)

本会の事務を司るために事務局を設置し、そこに事務局長 1 名と事務局補佐若干名を置く。

### 9. 企画委員会 (Advisory Board for the President)

会長を補佐するために、企画委員会を設置する。企画委員会は役員、事務局補佐、会長が指名する若干名の企画委員から構成される。

### 10. 総会 (Annual Meeting)

各年度、JACM 総会を開催し、会員に対して JACM 活動報告を行う。また、同時に会員どうしの親睦を図るとともに今後の活動に関して議論をする。

### 11. 表彰 (JACM Awards)

計算力学の広い分野で顕著な研究業績や功績のあった JACM 会員に、以下に列举する、日本計算力学賞、日本計算力学奨励賞、日本計算力学連合フェロー賞を授与し、表彰する。各賞は公募により候補者を広く募り、その推薦に基づき JACM 賞審査委員会により審査を行い授賞者の決定をする。推薦、審査、JACM 賞審査委員会の詳細は別途定める。

- (1) 日本計算力学賞 (The JACM Computational Mechanics Award) (各年度 3 名以内)  
計算力学の広い分野での顕著な研究業績、ソフトウェア開発、計算技術開発を行った研究者に対して与えられる。
- (2) 日本計算力学奨励賞 (The JACM Young Investigator Award) (各年度 3 名以内)  
計算力学分野で顕著な業績及び研究を行った 40 才以下 (表彰年 4 月 1 日現在で 40 才未満) の研究者に与えられる。
- (3) 日本計算力学連合フェロー賞 (The JACM Fellows Award) (各年度 5 名以内)

計算力学分野で顕著な業績を上げ、JACM へのサポート、および IACM 関連国際学会に貢献した研究者に対して与

えられる。

## 12. 会費 (Annual Fee)

当面の間, JACM の会費は無料とする。

### 附則

1. この規約は, 2021 年 2 月 24 日から施行する。
2. この規約は, 運営委員会の承認を得て改正することができる。

### 2021 年 2 月 24 日制定 名誉員選考に関する内規

#### (1) 内規の目的

- a. JACM 規約に則り, 名誉員選考過程の詳細について定める。定めのない事項については, 下に定める名誉員選考委員会と会長・副会長・事務局長で協議を行うものとする。

#### (2) 名誉員選考委員会

- a. 名誉員選考委員会委員長は会長がつとめる。ただし, 会長が交代する年度については, 前会長がつとめる (注 1)。
- b. 名誉員選考委員会委員長は以下から 5 名以上の名誉員選考委員会委員を指名し, 6 名以上で名誉員選考委員会を構成する。
  - 名誉員
  - 現在および過去の会長・副会長・事務局長
- c. 名誉員選考委員会には名誉員を 3 名以上含めるものとする。(なお, 2020~2021 年度については 1 名以上とする)

- d. 名誉員選考委員の任期は 1 年として, 重任を妨げない。

#### (3) 名誉員候補者の推薦

- a. 名誉員選考委員会は以下へ名誉員候補者の推薦を依頼する。
  - 名誉員
  - 現在および過去の会長・副会長・事務局長
- b. 名誉員候補者は, 推薦の時点で 65 歳以上の会員または元会員とする。

#### (4) 名誉員の選考

- a. 名誉員選考委員会委員は, 推薦のあった名誉員候補者について適任かどうか独立に判断を行う。
- b. 2/3 以上の名誉員選考委員会委員が適任と判断した名誉員候補者を名誉員に選出する。

#### (5) 名誉員選考結果の承認

- a. 名誉員選考委員会委員長から運営委員会に名誉員選考委員会を選出した名誉員の名簿を選出の理由を付けて示す。
- b. 運営委員のうち, 2/3 以上の賛成が得られた場合に名誉員として決定する。

#### (6) 名誉員選出結果の公表と名誉員証の授与

- a. 運営委員会にて承認を得た名誉員氏名をホームページ等で速やかに公表する。
- b. 総会等で名誉員証の授与をする。

(注 1) 通常, 新会長は 4 月 1 日付け就任である。しかし, 名誉員選出の手続きが前会長の任期中に始まる場合がある。そのような場合, 名誉員選考委員会委員長も前会長がつとめるのが適当である。

編集責任者

萩原 世也 (佐賀大学)